相双「食」と「ふるさと」新生運動ニュース

No.１１　２０１６年１０月
福島県相双農林事務所

メニュー
◆(有)いいたていちごランドが第５７回
福島県農業賞で特別賞受賞！！
◆相双地方の花き振興の取組について
◆～農地災害復旧・復興に向けて
復興支援隊２２名が相双に～　　ほか

(有)いいたていちごランドが第 57 回福島県農業賞で特別賞受賞!！（農業振興普及部）

「故郷に帰還する人の目標になればうれしい。」(有)いいたていちごランド(以下、いちごランド)の佐藤博代表は表彰式でそのように語っていました。

いちごランドは平成 17 年から飯舘村の夏季冷涼な気候を活かして、夏いちごを生産、県内各地の洋菓子店をはじめ、四国や九州などへも出荷していました。しかし、平成 23 年３月の原発事故により春の出荷を目前に村外への避難を余儀なくされました。

このような中でも佐藤代表は、避難先から村に通いながら、いちごの苗の管理を継続。村の見守隊に加わるなど村内での活動を続けるうちに「いちごの出荷を再開することで村の復興に貢献したい。」と考えるようになり、放射能汚染が懸念される資材のすべてを更新しました。その後、生産したいちごは県や村などによる放射性物質検査で安全性を確認し、平成 26 年７月から出荷再開を実現しました。

第 57 回福島県農業賞では全村避難という大きな苦難を乗り越え、村内での営農再開を果たし、復興・再生をけん引していることが評価され、復興・創生特別賞の栄誉に輝きました。

いちごを管理する佐藤代表と
箱詰めされた真っ赤ないちご

内堀知事と握手を交わす佐藤代表と菅野取締役

～農地災害復旧・復興に向けて　福耕支援隊２２名が相双に～（農村整備部）

農村整備部では、県営災害７５地区、団体営災害７５７地区、及び津波被災農地の区画整理８工区の復旧や整備に全力で取り組んでおります。労働者不足や原子力災害などの影響もあり、工事の完了まではまだまだ長い道のりです。このような中、復旧・復興の加速化に向け、今年度も全国から２２名の農業土木技術者が福島県へ応援に来ていただきました。災害査定、調査、設計、積算、現場監督、地元調整など昼夜を問わず福島のため業務に取り組んで頂いています。私達は、彼らを親しみと感謝の気持ちを込めて「復耕支援隊」と呼んでおります。彼らと力を合わせ、一日も早い復旧・復興と、震災以前の福島を取り戻せるよう共に頑張ってまいります。

福耕支援隊の集合状況

子どもたちによる未来の森林（もり）づくりが開催されました（森林林業部）

平成２８年７月２１日、南相馬市の海岸防災林造成地で、子どもたちがクロマツの苗木９５０本を植えました。

平成３０年春に同市で開催される第６９回全国植樹祭への機運を高め、子どもたちの自然やふるさとを愛する豊かな心づくりにつなげることを目的に開催したもので、相馬地方から 123 名の児童・保護者等が参加しました。

開会式では、「森林とのきずなづくり植樹リレー」の一環として、県の姿をかたどった木製のプレートが前植栽地であるいわき市から引き継がれ、その後参加者は５班に分かれ、しっかりと根付くことを願いながら１本１本丁寧に植栽していました。植栽後、南相馬市立高平小学校の児童が誓いの言葉を述べ、木製のプレートは次期植栽地である伊達市に引き継がれていきました。

子どもたちが大人になった頃、植栽された苗木が地域の人々や暮らしを守る海岸防災林として大きく成長していることが期待されます。

クロマツの植栽活動

植栽後の記念撮影

南相馬市小高区におけるシイタケ（菌床）の生産再開（森林林業部）

避難指示が解除された南相馬市小高区において、震災後初めて菌床シイタケの生産が再開されました。

生産者の泉さんは、震災と原発事故に伴う避難により長期の休止を余儀なくされました。しかし生産再開への思いは強く、平成２７年秋からご自身の手でハウスの建設に取り組まれ、今年の春に１棟目が完成、購入した菌床から発生したシイタケは県のモニタリング検査により安全が確認され、６月には全農を通じて県内外に出荷されました。９月には２棟目のハウスが完成する予定で、震災前の生産量の回復に止まらず、更なる生産拡大を目指されています。

生産再開までには多くの困難があり、それを乗り超えることが出来たのは「再開への強い想いと地域の応援があったから」とおっしゃっています。

相双地方のきのこ生産は震災前の状況に戻っていませんが、生産者の方々に寄り添いながら少しでも多くの生産再開につながるよう支援してまいります。

ハウス内での作業風景

パック詰めされたシイタケ

全国植樹祭協賛感謝状贈呈式（企画部）

平成３０年春に南相馬市で開かれる第６９回全国植樹祭の PR を支援するため、南相馬市の東北アクセス(株)と(株)シマ商会の広報協賛と資金協賛の感謝状贈呈式が、８月２３日、県南相馬合同庁舎で行われました。

感謝状贈呈式では、小野和彦県農林水産部長が感謝のあいさつを述べ、それぞれ感謝状を贈呈しました。

全国植樹祭の PR 支援は、植樹祭のロゴマークがデザインされたラッピングバスで、運行するのは貸し切りバス１台と路線バス５台の計６台です。東北アクセス(株)は南相馬～福島、南相馬～仙台間で路線バスを運行しており、ラッピングバスの運行を通じて県内外に全国植樹祭開催のアピールを行っていきます。

全国植栽祭 PR のラッピングを施したバス

県産農林水産物の安全・安心実感ツアーを実施しました（企画部）

県産農林水産物の安全性や美味しさを多くの方々に再認識していただき、県内の消費者に食べていただくことが重要となっています。このため、県産農林水産物の安全確保に向けた取組の見学や、生産者のみなさんとの交流などの体験を通し、親子で楽しみながら学べる日帰りバスツアー（かわうちの魅力を発見！夏休み「食」の安全・安心実感ツアー）を平成２８年８月２１日に実施しました。

主に県中・県北地方から小学生の親子１９組３８名の参加があり、最初に川内村高山食品検査場を訪問し、検査機器の見学と自主検査の取組について説明を受けました。

次にリンドウ畑に移動し、リンドウ栽培農家からこれまでのリンドウ栽培に取り組んできた体験談などを聞いた後、リンドウのラッピング作業を体験しました。

いわなの郷へ移動していわな釣りを体験し、昼食では、主に川内産の野菜等を使用したバーベキューを行い、食の安全・安心・美味しさを実感しました。

昼食後は、（株）KiMiDoRi の植物工場を訪問し、最新のレタス等完全人工光型水耕栽培についての説明を受けました。参加者からは栽培室の照明色や仕組み等についての質問がありました。

リンドウのラッピング体験

リンドウ畑での記念撮影

川内産野菜等を使ったバーベキュー

そうそう・６次化フェア in セデッテかしま（企画部）

相双地方で開発された６次化商品の対面販売を通じて、県内外から訪れた人たちに相双地方の６次化商品を広く周知するとともに、消費者の生の声を聞くことで商品改良などに結び付けてもらおうと平成２８年８月２７日(土)～２８日(日)南相馬市鹿島区のセデッテかしまでそうそう・６次化フェアを開催しました。

初日は、新商品を含むそれぞれの自慢の逸品を常磐道南相馬鹿島サービスエリア利用者に積極的に売り込み、感想などを聞き取りしました。販売終了後、かしま交流センターで、それぞれの課題を持ち寄り専門家のアドバイスを聞く課題検討会を開きました。

検討会で学んだ内容を翌日の販売に生かした他、今後の商品開発などにもつなげていきます。

相双地区の６次化商品を PR したフェア

専門家と事業者による課題検討会の様子

相双地方の花き振興の取組について（農業振興普及部・双葉農業普及所）

相馬地方では「食料生産地域再生のための先端技術展開事業（先端プロ）」の一環として、平成２５年度より南相馬市生産者ほ場でトルコギキョウと低温開花性花き（カンパニュラ）の組み合わせによる花き周年栽培の実証に取り組んでいます。

夏秋期のトルコギキョウの後作として、電照を利用した冬春期のカンパニュラを導入する栽培体系であり、電照により需要期に出荷することで高単価での販売が見込めます。平成２７年度は実証農家の他に、南相馬市内で３戸の農家がトルコギキョウの後作としてカンパニュラを導入しており、今後、さらなる普及が期待されます。

夏秋期のトルコギキョウ栽培

カンパニュラの電照栽培

広野町のリンドウ

双葉地方では風評の影響が少ない切り花栽培の取組が各地で行われており、今年度は県浜地域農業再生研究センターの実証研究により、広野町でリンドウ、楢葉町でトルコギキョウと電照コギク、浪江町で電照コギクの作付が行われました。リンドウ、トルコギキョウについては双葉地方の温暖な気候を活かし、県内他産地よりも早期に出荷ができました。コギクは電照により開花を制御し、８月お盆の需要期に合わせた出荷ができました。今後も本実証から得た知見をもとに、新たな産地育成に向けて切り花の作付を推進していきます。

ふくしまから
はじめよう。
Future From Fukushima.

福島県相双農林事務所　企画部　地域農林企画課
〒975-0031 福島県南相馬市原町区錦町一丁目 30 番地
Tel：0244-26-1153　Fax：0244-26-1181
http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36260a/
E-mail　kikaku.af06@pref.fukushima.lg.jp